

I <報 告>

(1) 11月29日(火)から30日(水)北九州市で部落解放・人権確立全九州研究集会が「『人権・平和・環境』を基軸にした部落解放運動の発展と深化をかちとり、あらゆる差別の撤廃にむけた連帯・協働の取り組みを進めよう!」をテーマに開催されました。1日目の全体会は、西日本総合展示場新館を会場に①特別講演「沖縄復帰50年と戦争と民主主義」前泊博盛さん(沖縄国際大学・大学院教授)、②記念講演「全国水平社100周年をむかえて」組坂繁之さん(部落解放同盟九州地方協議会議長)でした。約3000名の参加がありました。2日目は8分科会で行われました。本研究所からも第4分科会「被差別部落の歴史と現在」で小正路淑泰さん、角田幸一さん、園田久子さんが報告(司会は塚本博和さん、貞永靖さん)しました。また森山沾一さんが第1分科会「人権政策確立の現状と課題」でパネーラー、第6分科会「人権確立に向けた企業の現状と課題」で原田憲正さんが共同研究者として参加しました。

(2) 12月3日(土)部落問題部会第2回研修会が田川労働福祉文化会館で行われました。14名の参加がありました。原口孝博さん(元堅粕人権のまちづくり館館長/部落解放同盟福岡市協特別執行委員)を講師に「全国水平社創立百周年にあたって『部落差別』を再考する~二人称の関係・つながりを求めてパート②~」の講演、その後意見交流を行いました。

<感想から>

○原口さんのお話で感じたのは、これからの実践で生かしたい授業のハウツーではなく、自分自身の認識を深めることの大事さです。自分のアイデンティティーとは?と考えてみたいと思いました。部落差別の問題から導き出された理論に、なるほど…そんなふうに考えられるのかと思うことができました。「愛する人が大事な人なら差別しない」…深くしっかりとしたつながりがつくりにくい現状を変えるためにも、学びと交流が必要だと思いました。

○自分の内部をしっかりと見据え内省しつつ、さらに声を発し議論をし続ける勇気を持ちたいと、あらためて奮起させられました。私は何に拠って生きるのか、拠るべきものに拠って生きることができるように努力したいです。

○新自由主義の進行で、かつての部落差別の実態は社会全体の中で一般化されてきている。子どもたちや、その取り巻く実態を見てそう思う。自己責任の名のもとで分断化され、共同体は霧消しつつあるのに、観念は残り「壁」をつくる。現状についての整理が少しずつできてきました。

(3) 12月4日(日)福岡県人権啓発情報センター研究室で海外人権スタディツアー企画部会が17名の参加で行われました。今回の沖縄人権ツアーに向けて、沖縄についての事前学習とツアー行程(2023年1月4日(水)~1月6日(金))の説明でした。沖縄人権ツアー参加者は最終的には24名になりました。

II 図書紹介

『彼女はなぜ、この国で：入管に奪われたいのちと尊厳』

和田浩明＋毎日新聞入管難民問題取材班著 大月書店 2022年

☆「彼女」は、スリランカ人ウイシュマ・サンダマリさん。同居していた男性の暴力から逃れて交番に駆けこんだのが2020年8月、その後名古屋入管に收容される。亡くなる前月には歩けなくなり車椅子を使う、トイレ介助も必要など、33歳の人に起こると思えない状態になる。そのまま治療もされず3月6日に亡くなった。日本の子どもたちに英語を教えたい、将来はスリランカで学校を開く、と希望に燃えて来日した3年9ヶ月後のこと。

全国の入管施設での死亡者は、2007年以降で17人（内自死5人）。入管の長期收容の常態化や難民認定率の低さは、これまでUN人権理事会・UNHCR・US国務省から度々批判されてきたが、政府は2021年春に入管法改正案を提出して外国人排除の強化を図ったのは記憶に新しい。

本書は、毎日新聞社の和田氏と有志記者による「入管難民問題取材班」の報道のまとめである。ウイシュマさん・長期收容者・支援者・弁護士・政治家・入管庁幹部と職員・シットインに参加した若者たちなど、各章は「人間」中心である。難民認定制度や入管行政の問題点も明快で、理解し易い。ウイシュマさんは外国人だから見殺しにされたのだろうか。誰のいのちも尊厳も大切にされる社会にするため、友人たちにも読むことを勧めたい本。（会員 松本京子さん）

Ⅲ お知らせ ①

(1) 部落史研究部会/史・資料プロジェクト合同研究会第7回

日時：12月10日(土)14:00～

内容：問題提起

「福岡の近代史事例を用いた授業と、人権学習を中心にした中学校3年間の部落問題学習実践例」

問題提起者 古賀 朗さん(会員)

場所：古賀市ししぶ交流センター（JRししぶ駅西口）

（古賀市日吉3丁目14-3 TEL092-942-3243）

参加費：500円

(2) 啓発部会

日時：2023年1月28日(土)13:00～16:00

場所：田川市民会館

テーマ：「今日の啓発の在り方について」

(3) 第210回定例研究会（公開講座）「感染症と部落問題ー近代都市のコレラ体験ー」

日時：2023年1月22日(日)14:00～16:00

場所：春日市クローバープラザ会議室(予定)

* 詳細検討中

< * 各部会・講座の開催等の詳細については、ホームページをご覧ください。 >

Ⅲ お知らせ②

(1) (公社)福岡県人権研究所「2023年度職員」公募について

(2) (公社)福岡県人権研究所「2023年度研究プロジェクト研究委託」について
詳細は、ホームページをご覧ください。

☆ホームページ

<https://www.f-jinken.com>

〔人権研究所の本〕

新谷恭明『校則なんて大嫌い！ー学校文化史のおきみやげー』

久米祐子『子どもから障害児を「分けない教育」の戦後史インクルーシブ教育とはー』

木村政伸『教室の灯は希望の灯 自主夜間中学「福岡・よみかき教室」の二五年 』

関 儀久『感染症と部落問題 近代都市のコレラ体験』

森山沾一・和智俊幸・横田司・坂田美穂

『殉義の星と輝かん～百年生きる「解放歌」と柴田啓蔵』

部落史研究部会/史・資料プロジェクト

『2020/2021 史・資料プロジェクト報告集「身分」を考える』

木村かよ子「ポストカード」5種5枚セット 500円

☆お求めは

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/>

☆ニュースのバックナンバーは下記研究所公式サイトをご覧ください。

<http://www.f-jinken.com/news/iberacion.html>

ニュース担当：峰

info@f-jinken.com (登録解除はこちらから)